

キューバ（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在キューバ日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	1	5	29	3	4	94	4	9	123

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

キューバにおける日本語教育は、1970年代頃から少人数制の語学学校（学校教育以外）で実施されていたが、1980年代後半にはいずれの学校も廃校となってしまい、一時期、日本語教育実施が途絶えた。しかし、1992年にハバナ大学外国語学部附属語学センターにキューバ人日本語教師による日本語講座が開設されて以来、同大学が日本語学習機関の中心的存在として、現在まで主に学生や社会人を対象に講座を継続している。なお、現在の教師数はキューバ人教員2名及び日本人教員1名（JICAシニアボランティア）の計3名。

その後、1994年には「クバナカン観光公社」にて、1998年にはアジアの家（CASA DE ASIA）にて、2002年にはフィンレイ研究所（INSTITUTO FINLAY）及び国立芸術学院（INSTITUTO SUPERIOR DE ARTE※現在の国立芸術大学）にて、2003年には観光省・観光業訓練学校にて、それぞれ日本語講座が開設されたが、多くの講座が人手不足などにより中止された。また、青年の島（Isla de la Juventud）及びハバナにて日系人を対象

として開設された日本語教室も継続が困難となり、再開の目途は立っていない。2016年9月に、サンクティ・スピリトゥス大学及びサンクティ・スピリトゥス県の博物館グアジャベラの家にて新規講座が開設されたが、日本語教師の不足により2019年9月にはいずれも閉鎖された。2019年には再びアジアの家で日本語講座（初級）が開始され、コロナ禍の影響を受け一時閉鎖していたが、2022年9月に再開され、現在では入門・初級、初級及び中級の3クラスをキューバ人教員2名及び日本人教員2名（うち1名はJICAシニアボランティア）が教えている。国立芸術大学においては、唯一の日本人教師がコロナ期にキューバを離れてしまったが、2021年12月に元JFの日本語学習者訪日研修生が初級レベルの指導を開始（同教員はJFの2023年度海外日本語教師研修（基礎）を受講）し、現在はキューバ人教員2名が在籍。また、2023年3月に東部グランマ県の公民館で、同県教育局の協力の下、日本文化愛好家による日本語初級レベルクラスが開始された。

背景

1960年代及び1970年代、キューバでは頻りに日本映画（黒沢明監督作品及び「座頭市」などの時代劇）が上映されたところ、その影響を受けて日本文化に対し関心を抱き、日本語学習を開始する人々が多くを占めていた。

キューバは、ソ連崩壊後の経済政策として観光客誘致による外貨獲得を目指しており、特に、観光業従事者に対する外国語教育に力点を置いているため、観光業訓練学校などで日本語教育を導入したが、日本人観光客の数が伸び悩んだことを理由に2005年に日本語講座の中止が決定された。日本語学習の主な目的としては、武道やアニメなどの日本文化に興味を持った延長や、教養のひとつとして身に付けたいなど、さまざまなことが挙げられる。

特徴

キューバにおける潜在的な日本語学習希望者は多いと思われるが、教育省及び高等教育省の外国語カリキュラムの中に含まれていないことから、公的教育機関での新たな日本語教育実施は困難となっている。また、数少ない日本語教育機関においても教師や教材の不足により、適切な体制が確保されていないため、学習希望者の受け入れは十分に果たされていない。なお、アジアの家及び国立芸術大学は、2022年までは受講者の募集に際して選抜を実施していたが、JICAシニアボランティアの派遣及び同大学日本研究講座長交代により、両機関は基本的に全ての希望者を受け入れる方針に転換した。なお、アジアの家では2026年1月現在、講座登録者総数が70名に達している。

コロナ後、医療機関及び教育・研究機関において優先的にインターネット通信環境の整備が進められ、携帯電話のデータ通信サービスも改善してきた。しかしながら、多くの国民にとって、インターネット通信料金は高額であり、かつ接続も不安定であることから、データ量の多い動画やオンライン会議などのサービスは必ずしも広く使用されていない。

最新動向

一時期の日本人観光客の急増及び日本企業の進出により、旅行ガイドや日系企業として働きたいとのインセンティブが働き、学習希望者が大きく拡大してきていたが、現在そのような就職先を確保することは困難であり、日本語に興味を抱く人の多くは、日本のマンガやアニメなどのポップカルチャーから刺激を受けている。キューバでは各地に日本文化愛好家グループが存在するなど、日本への関心から日本語の学習に興味を持つ人々は一定程度確認され、特に青少年の間での人気が根強い。JFからも日本語アドバイザーが頻りに派遣され、教師間の交流を促進するとともに、教授法のレベルアップがはかられている。また、2024年12月には、JICAシニアボラン

ティア1名が到着し、ハバナ大学外国語学部で活動を開始した。一方、教師や教材の不足、依然として不安定なインターネット通信環境などの課題は引き続き存在し、更なる改善が求められる。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

ハバナ大学外国語学部、国立芸術大学で日本語教育が行われている。

ハバナ大学外国語学部においては、日本語コースは選択科目であり取得単位として認められていなかったが、2011年より第二外国語としての単位取得が認められるようになった。以上のことから当国で、「日本語（主）専攻」という条件を付けている、国費留学制度の日本語・日本文化研修留学生の応募資格を持っているのは、ハバナ大学外国語学部の学生のみとなっている（芸術大学は同留学制度の応募資格に合致しない）。

学校教育以外

ハバナでは博物館であるアジアの家で一般市民向け（基本的に中学生以上）に日本語教育が行われている。サンクティ・スピリトゥス県、グランマ県でそれぞれプライベートスクール及び公民館で日本語教室が実施されている。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

6-3-3制。

就学前課程1年間（5～6歳、幼稚園に相当）の後、小学校が6年間（6～12歳）、中学校が3年間（13～15歳）。その上に高等学校が3年間（16～18歳）、高等専門学校は3～5年間。高等教育機関は大学、職業専門学校が2～3年間など。小学校から中学校までの9年間は義務教育。

教育行政

初等、中等教育機関は教育省、高等教育機関は高等教育省の管轄下にある。

言語事情

スペイン語が公用語であり国語になっている。英語はホテルや空港など外国人観光客が多く集まる場所で使用されるのみである。

外国語教育

小学校4年生より第一外国語を履修（主に英語。必修）する。

外国語の中での日本語の人気

教師不足などにより教育機関での学習者は少なめだが、根強い人気があり、インターネットが普及してきたことを受け、ネット教材を活用して独学する者の数は増加している可能性が高い。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

主に『みんなの日本語』や『まるごと 日本のことばと文化』などを使って、初学者から日本語及びスペイン語で授業が行われている。キューバで出版された日本語教材はない。

学校教育以外

【高等教育】に同じ。インターネットを利用し独学する者の数は増加している可能性が高い。

IT・視聴覚機材

特になし。

5. 教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

1960～1970 年代に語学学校で日本語を学習したキューバ人が中心となって日本語教育を実施しており、近年では JF の日本語教育プログラムや交換留学制度で訪日した若手のキューバ人も教鞭を執っている。また、2024 年 12 月に、JICA シニアボランティア 1 名が赴任した（2026 年 12 月任期終了予定）。

学校教育以外

資格要件の基準は特にない。

日本語教師養成機関（プログラム）

キューバ独自の日本語教師養成システムがないので、JF の日本語教師研修プログラムを最大限活用して教師のレベルアップを図っている。また、2024 年 12 月からは JICA シニアボランティア 1 名がキューバ人教師の指導にもあたっている。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

社会主義国家キューバにおいて、外国人が就労許可を得るのは容易ではないが、2015 年には民間企業から派遣された日本人教師が、2016～2018 年には JF 助成を通じて派遣された日本人教師、それぞれ 1 名が教鞭を執っていた。また、国立芸術大学には、10 年以上に渡り、直接契約で教鞭を執っていた日本人講師が 1 名いたが、コロナ期にキューバを離れて以降、不在となっている。なお、アジアの家ではキューバの永住権を持つ日本人教員 1 名がボランティアで指導に当たっている。

教師研修

JF の日本語教師プログラム及び中米カリブ日本語教師セミナー以外に教師が研修を受けられる機会はほとんどない。

6.教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

日本語教育関係のネットワークは確認されていない。

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

なし

国際協力機構（JICA）からの派遣（2025年10月現在）

シニア海外協力隊

ハバナ大学外国語学部 1名

その他からの派遣

(情報なし)

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9.評価・試験

共通の評価基準や試験は確認されていない。

10.日本語教育略史

1970年代	少人数の語学学校にて日本語教育開始
1980年後半	上記日本語学校が廃校
1992年	ハバナ大学外国語学部にて日本語教育開始
1994年	クバナカン観光公社にて観光業従事者向けの日本語講座開設
1998年	アジアの家にて日本語教育開始
2002年	フィンレイ研究所、国立芸術大学にて日本語講座開設
2003年	観光省・観光業訓練学校にて日本語講座開設
2005年	クバナカン観光公社、観光省・観光業訓練学校の日本語講座中止
2006年	フィンレイ研究所の日本語講座中止
2013年	ハバナ市において、日系人対象の新規講座が開設
2014年	アジアの家日本語講座一時中止

2015年	ハバナ大学に、日本人日本語教師が派遣
2016年	サンクティ・スピリトゥス大学及びグアジャベラの家に、日本語講座が開設
2017年	ハバナ市における日系人対象の日本語講座中止
2018年	サンクティ・スピリトゥス大学及びグアジャベラの家の日本語講座中止（2020年キューバ人教員が個人授業を再開）
2018年	アジアの家日本語講座再開
2020年	サンクティ・スピリトゥス県プライベートスクール「千本桜」開始
2023年	グランマ県公民館における日本語教室開始

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）